**はなさかじいさん**

【全文】

むかしむかしの　おはなしです。

おじいさんと　おばあさん、

そして　いぬのポチが　なかよく　くらしていました。

あるひ　ポチが　ふしぎなこえで　なきました。

「ここほれ、わんわん」

じめんを　ほってみると　ぴかぴかの　こばんが　ざっくざく！

「おばあさん、たいへんだ」

「まあまあ、こんやは　ごちそうに　しましょう」

おばあさんは　おいしい　ごはんを　たっぷりつくり

むらのみんなに　わけてあげました。

「ぬぬう、うらやましい」

となりの　いじわるじいさんが　やってきて

ポチを　むりやり　つれていきました。

「さあ　はやく　なくんだ」

そういうと、ポチを　ばしんと　たたきました。

.

「きゃいん」

ポチが　いたくて　なくと、

いじわるじいさんは　じめんを　ほりました。

「な、なんじゃあ　これは！」

そこには、へびや　けむしが　ぞろぞろ。

「この　やくたたず！」

いじわるじいさんは　ポチを　ごちんと　なぐりました。

かわいそうに、ポチは　しんでしまいました。

やさしい　おじいさんと　おばあさんは　かなしみました。

「なんて　かわいそうな　ポチ」

「さみしくないように　おはかに　きを　うえましょう」

きは　ぐんぐん　おおきくなりました。

あるひ　ゆめのなかに　ポチが　でてきました。

「あのきを　うすにして　おもちを　つくってほしいわん」

「そういえば　ポチは　おもちが　だいすきだったねえ」

ふたりは　いわれたとおりに　しました。

ぺったん、ぺったん。

「おやまあ、こばんが　でてきたよ！」

おもちは　きんいろの　こばんに　かわりました。

「うぬぬぬ、きにくわん！」

いじわるじいさんは

こっそりと　うすを　もやして　しまいます。

おじいさんと　おばあさんは

なきながら　はいを　あつめました。

ふわり　ふわり……

かぜにのって　はいが　とび、

かれた　えだに　はなが　つきました。

「かれきに　はなを　さかせよう」

おじいさんは　きにのぼって はいを　まきました。

あたり　いちめんが　ぴんくいろに　そまります。

「なんて　きれいな　さくらじゃ！」

ちょうど　とおりかかった　おとのさまが

おじいさんと　おばあさんに　ごほうびをくれました。

くやしくなった　いじわるじいさんが　いいました。

「さくらを　さかせたのは　わたしです」

「ええい、うそきめ！」

おとのさまは　おこりました。

いじわるじいさんは

ろうやに　とじこめられて　しまいました。

おしまい

**HANASAKA JIISAN**

 **(El anciano que hizo que los árboles muertos florecieran)**

Esta es una historia de hace mucho, mucho tiempo.

Un abuelo y una abuela,

 Y su perro, Pochi, vivian felizmente en armonía.

Un día Pochi ladro con una voz extraña.

－“Aquí miren, guau guau”

¡Al cavar el suelo, salieron muchas monedas brillantes y ovaladas!

－“Abuela, que montón”

－“Bueno, vamos a invitar a los demás a comer esta noche”

La Abuela cocino muchísima comida deliciosa y

la compartieron con todos en el pueblo.

－“Abuela, que montón”

－“Urkk, que envidia”

Llego el vecino un viejo cruel.

Llevandose a Pochi por la fuerza.

－“Vamos ladra, apresúrate”.

Diciendo eso, golpeo fuertemente a Pochi.

－“Kyain”

Pochi al sentir dolor gimió,

Mientras el cruel viejo cavaba el suelo

－“¡Oye, qué es esto! ”

De ese lugar, comenzaron a salir serpientes y orugas

－“¡Esto es inútil! ”

El cruel viejo golpeó a Pochi y lo lanzó.

lastimosamente, Pochi terminó muriendo.

El amable abuelo y la abuela se entristecieron.

－“Pobrecito de Pochi".

－“Plantemos un árbol en su tumba para que no se sienta solo”.

El árbol se hizo cada vez más y más grande.

Un día, Pochi se les apareció en un sueño.

－“Quiero que conviertas ese árbol en un mortero y hagas pasteles de arroz en el, guau”.

－“Ahora que lo pienso, a Pochi realmente le gustaban los pasteles de arroz".

Los dos hicieron lo que les dijo.

Pum, pum.

－“¡Oh!, ¡Dios mío, aparecieron monedas de oro!"

Los pasteles de arroz han cambiado a monedas doradas.

－“¡gr…, como me molesta!"

El viejo cruel

En secreto quemo el mortero.

El Abuelo y La abuela

Recogieron las cenizas mientras lloraban.

Suavemente, suavemente...

El viento se llevó volando las cenizas,

Las Flores florecieron en las ramas secas.

－“Hagamos que crezcan flores en el árbol de él” ( de Pochi)

El anciano se subió al árbol y esparció las cenizas.

Los alrededores se tiñeron de rosa.

－“Qué hermosos cerezos! ”

Un hombre que acaba de pasar por ahí

Les dió una recompensa al abuelo y a la abuela.

El cruel viejo, frustrado dijo:

－“Yo soy el que hizo florecer los cerezos”.

－“¡Sí ajá que mentiroso! ”

Mi esposo se enojó.

Y al viejo cruel

lo encerraron en una prisión.

Fin

**へびのおよめさん**

【全文】

むかしむかし、

おひゃくしょうの　ごんべえさんは、

こどもたちに　いじめられている　ちいさな　しろいへびを、

たすけました。

「これこれ。かわいそうなことは　およし」

そのよる　ごんべえさんの　おうちに、

いろじろで　きれいな　むすめが　やってきました。

「わたしを　およめさんに　してください」

ごんべえさんは　おおよろこび。

ふたりは　なかよく　くらしましたが、

およめさんには　ふたつだけ、

ふしぎなことが　ありました。

ひとつは、

まいとし　なつのはじめに　みっかだけ、

どこかへ　かくれて　しまうこと。

もうひとつは、

こどもが　ごにんうまれ　まごが　じゅうにんできても、

ちっとも　としをとらず、

しらがも　しわも　いっぽんもない、

ということでした。

あるとしの　なつのはじめ、

ごんべえさんが　おもいびょうきに　かかり、

およめさんが　ひとつき、

つきっきりで　かんびょうしました。

やっと　げんきになった　ごんべえさんは、

およめさんを　みて　びっくり。

とつぜん　およめさんに　しらががはえ、

しわも　たくさん　できていたのです。

「わたしは　むかし、

　あなたに　たすけていただいた　しろへびです。

　まいとし　なつのはじめに、

　かくれて　ふるいかわを　ぬいだので、

　としを　とらなかったのです。

　ことしは　びょうきの　あなたが　しんぱいで、

　かくれることが　できなくて、

　とうとう　おばあさんになって　しまいました」

ごんべえさんは　わらいました。

「わしも　じいさんに　なったのだから、おあいこじゃ」

そうして　ふたりは、

それまでどおり　なかよく　くらしました。

おしまい

**HEBI NO OYOME SAN**

 **(La novia serpiente)**

Hace mucho tiempo,

Un campesino de nombre Gonbee,

salvo a una pequeña blanca serpiente de unos niños que la estaban maltratando.

－“Esto, esto. Que cosa más penosa, deténganse.”

Esa noche a la casa del joven Gonbee,

Ha llegado una muchacha hermosa y de piel clara.

－“Por favor, acépteme como su prometida”

El joven Gonbee se alegró.

Los dos vivieron felizmente, pero

Con la esposa había solo dos

situaciones extrañas que sucedían.

Una era,

Todos los años al comienzo del verano solamente durante tres días,

En alguna parte ella se escondía.

La otra era,

Aunque ella había tenido cinco hijos y diez nietos,

no había envejecido para nada,

Sin canas, sin arrugas, ni un poco,

Así era como sucedía.

Un año a principios de verano,

El anciano Gonbee cayó gravemente enfermo,

Su esposa por un mes,

Lo cuido constantemente.

El anciano Gonbee finalmente se recuperó,

se sorprendió al ver a su esposa.

De repente, el cabello de su esposa se puso blanco,

también le aparecieron muchas arrugas.

－“Hace mucho tiempo,

 yo era la serpiente blanca que tu salvaste.

 Todos los años al inicio del verano,

 Me escondía y cambiaba mi piel vieja,

 por eso no envejecía.

Este año como me preocupa tu enfermedad,

No pude esconderme,

Y finalmente, me he convertido en una anciana.”

Gonbee se rió.

－“Yo también me he convertido en un anciano, ya estamos parejos”

Después de eso,

los dos vivieron felices para siempre.

FIN

**かっぱくんのおさら**

【全文】

むかしむかし　あるむらに　かっぱが　いました。

むらの子どもたちは　かっぱと　なかよし。

おにごっこも　かくれんぼも　いつも　いっしょです。

　あるひ　かっぱが　じんじゃの　いしだんに　すわって　ないていました。

「かっぱくん、　どうしたの？」

　みんな　かっぱを　かこんで　しんぱいしました。

「あさ　おきたら　あたまの　おさらに　ひびが　はいっていたの。

　もしかしたら　ぼく　しんじゃうかもしれない」

「わたしが　なおしてあげる」

と　おんなのこが　つばを　つけましたが　なおりません。

「ぼくが　なおしてあげる」

と　おとこのこが　のりを　つけましたが　なおりません。

　みんな　くちを　そろえて　いいました。

「おいしゃさんに　みてもらおう」

　かっぱは　みんなにつれられて　おいしゃさんのところへ　いきました。

「うーーん」

　おいしゃさんが　うでをくみ　むずかしい　かおをしています。

　かっぱも　みんなも　つばを　ごっくん。

　おいしゃさんが　ぱっと　えがおになりました。

「だいじょうぶ　ほうって　おけば　もとに　もどるよ」

　かえりみち　かっぱは　みんなに　かこまれて　あるいていました。

「かっぱくん　よかったね」

と　おとこのこが　いいました。

「うん、ありがとう」

と　かっぱ。

「あ　かっぱくんの　おさらから　なんか　でてる」

と　おんなのこが　いいます。

「なに　なに？」

　みんなが　のぞくと……

「あ！　たんぽぽ」

　ひびの　あいだから　いつのまにか　たんぽぽが　かおをだして　いました。

「これは　きっと　ゆうじょうの　はなだね」

と　だれかが　いいました。

おしまい

**KAPPA KUN NO OSARA**

**(El plato del Kappa)**

Hace mucho tiempo, en un pueblo vivía un Kappa\*.

Los niños del pueblo se llevaban bien con el Kappa.

Siempre jugaban al anda y al escondite juntos.

Un día, Kappa estaba sentado en las gradas de un templo sintoísta, llorando.

－“¿Qué ocurre, Kappa?

Los niños lo rodearon, preocupados.

－“Cuando me levanté en la mañana, el plato de mi cabeza estaba agrietado. ¿Será que me voy a morir?”

－“¡Yo lo arreglaré! ”

dijo una niña y le puso un poco de saliva, pero no se arregló.

－“¡Yo lo arreglaré! ”

dijo un niño y le puso un poco de pegamento, pero no se arregló.

Todos cerraron la boca y dijeron:

－“¡Te llevaremos a que te revise el médico! ”

Nota del traductor: \*Kappa: (河童) criatura mitológica típica del folklore japonés, seres de color verde por lo general, su forma puede variar entre un anfibio o reptil, habita en los ríos y por lo general se cree que asusta a los niños. Lo más característico de estas criaturas es que tienen en la parte superior de su cráneo un recipiente lleno con agua. Supuestamente es su fuente de vida. Si se le llega a secar, el Kappa muere, a menos que regrese al agua. Una forma de matarlos justamente es saludarlos con una reverencia, ya que estas criaturas son muy corteses que devuelven el saludo, por ende, se les vacía el agua de su cabeza. Si un humano le quiere salvar la vida solo debe de llenar el platito en su cabeza con agua, quedando entonces el Kappa eternamente agradecidos con esa persona.

El kappa fue llevado a la casa del médico acompañado por los niños.

－“A ver. ”

El médico le aprieta un brazo y arruga la cara.

El kappa y los chicos tragaron saliva.

－“Si te aseguras de no tocarlo, pronto estará como nuevo. ”

El kappa caminó de regreso a casa rodeado por los niños.

－“Qué alivio, ¿no, Kappa? ”

un niño le dijo.

－“Sí, gracias. ”

Le respondió el Kappa.

－“Oh, algo está saliendo del plato de Kappa. ”

Le avisó una niña.

－“ ¿Qué? ¿Qué cosa?”

Y justo cuando los niños intentaron echarle un vistazo…

－“¡Ah! ¡Un diente de león!”

Sin que se diera cuenta, de la grieta que había en el plato se asomó un diente de león.

－“Esto seguro que es una flor de la amistad. ”

Dijo alguien.

Fin.

**つるのおんがえし**

【全文】

むかしむかしの　おはなしです。

あるところに　びんぼうな　わかものが　いました。

ゆきのひ、

わかものは　いちわの　つるを　みつけました。

バサバサッ、バサバサッ。

「たいへんだ。わなに　かかっている」

たすけてあげると、つるは

「こうー」

と　なきました。

「きをつけて　おかえり」

つるは　くるくる　まわりながら　かえっていきました。

そのよる、

「ごめんください」

きれいな　むすめが　やってきました。

「ゆきで　こまっています。ひとばん　とめてください」

わかものは　ありったけの　ごはんを　たべさせ、

ふとんを　ぜんぶ　かしてあげました。

むすめは　ほおを　あかくして　いいました。

「しんせつな　かた。

どうか　わたしを　およめさんに　してください」

ふたりは　ふうふに　なりました。

しあわせでしたが、びんぼうは　かわりません。

「これでは　しょうがつが　むかえられない」

わかものが　かなしむと　むすめが　いいました。

「わたしが　はたを　おります。

でも、けっして　のぞかないで　くださいね」

むすめは　へやに　とじこもり、

はたを　おりました。

とんとん　からり

とんからり

みっかご、ようやく　できあがりました。

むすめは　げっそりと　やつれています。

「こんなに　やせてしまって！」

「それより、ぬのを　おとのさまへ　とどけてください」

むすめの　おった　ぬのは　ゆきのように　しろく、

しんじゅのように　ぴかぴか　かがやいていました。

「なんと　すばらしい」

おとのさまは　おおよろこび。

ごほうびを　たくさん　くれました。

「きにいったぞ。もうひとつ　もってまいれ」

「さて、こまった」

めいれいには　そむけません。

すると　むすめが　いいました。

「もういちどだけ　はたを　おります。

こんかいも　けっして　のぞかないで　くださいね」

とんとん　からり

とんからり

みっか　たっても、

いつか　すぎても　おとは　やみません。

「だいじょうぶかな？」

わかものは　しんぱいになり、

へやの　とを　あけてしまいました。

そこには　つるが　いました。

むすめは、ゆきのひに　たすけた　つるだったのです。

つるは、むしった　じぶんの　はねで、

はたを　おっていました。

「すがたを　みられたら、

おわかれしなくては　いけません」

つるは　よわよわしく

「こうー」

と　なき、そらへ　かえっていきました。

おしまい

**TSURU NO ONGAESHI**

**(La Grulla agradecida)**

Esta historia es de hace mucho tiempo.

En un lugar había un pobre joven.

Un día de nieve, un joven encontró una grulla.

－“BASABASA, BASABASA” (sonido del aleteo de una grulla)

－“Que terrible, está atrapada en una trampa”

Cuando la salvo, la Grulla graznó, “KOOOO”

－“ten cuidado al regresar”, le dijo el joven

La grulla se fue revoloteando.

Esa noche,

－“Con permiso” dijo una voz

Una hermosa muchacha había llegado.

－“Estoy en problemas por la nieve. ¿Puedo quedarme una noche en su casa?”

El Joven le preparó toda la comida que tenía en casa,

le prestó el colchón completo.

A la muchacha se le sonrojaron las mejillas.

－“Fuiste muy amable conmigo. ¿Puedo casarme contigo?”

Los dos se volvieron esposos.

Ahora son felices, pero la pobreza no cambió.

－“Ya vine el nuevo año, pero no podemos celebrarlo”.

Dijo el joven con tristeza y la esposa respondió,

－“Yo voy a tejer tela, pero no debes verme tejiendo”.

La muchacha en un cuarto encerrada,

tejía la tela

TONTON KARARI,

TONKARARI (sonido al hacer la tela)

En tres días por fin tuvo la tela lista.

La muchacha estaba en los huesos al término de este tiempo

－“Te pusiste tan flaca”. (El joven dijo)

－“Más importante que eso, debes entregarle la tela al señor Feudal”:

 (La esposa le respondió)

La tela que tejió la muchacha es tan blanca como la nieve,

y brillaba como con el resplandor de una perla.

－“¡Qué maravilla!”. (dijo el señor feudal)

El señor feudal estaba muy alegre con la tela.

El joven recibió entonces una gran recompensa.

－“Me ha gustado la tela. ¿Tráeme otra?” (dijo el señor feudal)

－“Pues bien, estamos en un apuro” (El joven le conto a su esposa)

Es una orden, no se puede desobedecer.

En ese momento, la muchacha dijo.

－“Una vez más, volveré a tejer tela.

Esta vez tampoco debes verme tejiendo, por favor”

TONTON KARARI,

TONKARARI (sonido al hacer la tela)

Incluso después de tres días,

el sonido no se detenía.

－“¿Estará bien?” (El joven pensó)

El joven se preocupó,

y abrió la puerta de la habitación.

Ahí estaba una grulla.

La muchacha era aquella grulla que había rescatado un día de nieve.

La grulla usaba sus propias plumas,

para tejer la tela.

－“Al ver mi verdadera forma, ahora debemos separarnos.” (La grulla le dijo)

La grulla débilmente graznó.

－“KOO…”

Llorando mientras regresaba al cielo.

Fin